

今日のキーワード 『東京モーターショー』の注目点は？

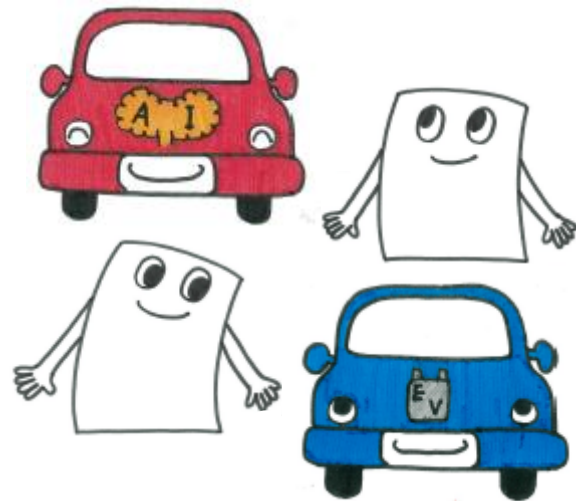
2年に1度開かれる『東京モーターショー』が開幕しました。10月25日に報道公開され、10月27日～11月5日まで一般公開されます。世界10カ国から153社の企業・団体が出展します。電気自動車（EV）や自動運転車の開発競争が加速する中での開催となり、今後の自動車開発の方向性を示す重要なイベントとなります。各社の今後の開発の方向性や最新技術などが注目されます。

ポイント1 『東京モーターショー』が開幕 EVと次世代電池などの方針も発表

- 長く続いたガソリン車・ディーゼル車からEVへの転換や自動運転が実用レベルに近づくなかで、『東京モーターショー』が開幕しました。出展各社が特に力を入れ、注目を集めそうなのは、EV、燃料電池車（FCV）に加えて自動運転時代を見据えた人工知能（AI）搭載車などです。
- トヨタ自動車は25日の記者会見でEVの開発を加速する方針を示しました。また、次世代電池として注目され、EV普及の鍵となる航続距離と充電時間を大幅に改善できる「全固体電池」については、2020年代前半の実用化を目指す方針も発表されました。

ポイント2 EVと自動運転技術などを披露 日本、欧州企業などが出展

- トヨタ自動車は、AIを活用したEV「コンセプト・愛i」を出展しました。AIがドライバーの表情や動作などから気持ちを押し量り、運転者が好みそうな経路を薦めたり、疲れたときは自動運転に切り替えたりします。FCVでは航続距離を量産型FCVに比べて5割伸ばし、約1000キロメートルとしたコンセプト車（展示目的で制作された車）を公開しました。
- ホンダはEVスポーツカーを世界初出展。また2019年に欧州で発売予定である量産型EVのコンセプト車を公開しました。
- 日産自動車はEV「リーフ」をベースにしたスポーツ車、ダイハツ工業、スズキもEVのコンセプト車を公開しました。



今後の展開 自動車の技術開発競争は一段と激化

- 各社が開発に取り組むEVや自動運転車は法制面の整備や技術面でも改善すべき点多く、何より本格普及にはコストの大幅削減が求められます。
- 課題は残るものの環境対応、政治からの後押しもあり、EVや自動運転車への流れは加速し、それらを巡る技術開発競争は一段と激化すると見られます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

ここも
チェック！ 2017年9月29日 『5G』に向け自動運転など様々な技術開発が加速
2017年9月19日 『フランクフルト・モーターショー』の注目点は？

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。